



田んぼわらしの ささやき

田んぼ 10年だより

第8号 2017年2月15日発行

田んぼの生物多様性向上10年(略称:田んぼ10年)ニュースレター
 発行: NPO法人ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ) 水田部会
 所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
 TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org
 ホームページ: http://www.ramnet-j.org

目次

1. 生物多様性条約 COP13 でのラムネットJの活動報告 ラムネットJ 安藤よしの..... 1・2
2. Series 活動紹介 コナギを愛でて食べる会報告 小田原食とみどり 齋藤文字 3
3. 水田部会からのお知らせ/これからの活動について シール紹介他 4

田んぼだより第8号は、メキシコ カンクンで12月4~18日に開催された生物多様性条約第13回締約国会議の報告を特集しています。農林水産業の生物多様性の主流化がテーマに取り上げられたこのCOP13で、ラムネットJはサイドイベントを主催し、展示等の様々な活動を実施しました。2020年のCOP15は中国で開催され、愛知ターゲットのフォローアップについて検討することなどが決まりました。ご協賛くださった皆様には心より感謝申し上げます。地域の活動紹介は、コナギの収穫と料理に取り組んだ「小田原食とみどり」からの報告を掲載させていただきました。

* * * * *

生物多様性条約第13回締約国会議報告

CEPA 部会長 安藤よしの

皆様のご支援とご協力を得て、ラムネットJでは英文のポスター等の展示物や資料を作成し、カンクンで予定されていたサイドイベント他のすべての活動を実施、それぞれの取り組みで成果を出すことができました。COP13の活動の中でも、特に3件に焦点を絞って報告をします。



湿地の生物多様性バナー

↑ 協賛企業ロゴ



ラムサール・ネットワーク日本の展示ブース

① 展示ブースでの活動

ブースの位置が、多数のサイドイベントの行われる部屋へと通じる通路前に変更されていたので、連日大勢の人々の行き来があり、ブースを訪れる人々で賑わいました。会議前に案内されていたもともとの場所から変更されていたことが幸いし、湿地関係者が集う場所ともなりました。

COP13の展示用に作成した「Mainstreaming WETLAND Biodiversity」(湿地の生物多様性の強化・横3m×縦1m)バナーをブースの中央に据え、田んぼ10年プロジェクトと湿地のグリーンウェイブに参加登録する団体による各地での取り組みを中心に紹介しました。

それぞれ英文で作成した田んぼ10年プロジェクト優良事

例集・行動計画アクセスガイド・ご提供くださったお米の袋・バンダナ・日本酒・お茶や海苔に関する資料・ICEBA4の小山宣言・田んぼ10年シール・渡り鳥などの湿地の生きものの写真を配置しました。バンダナとシールは特に皆さんに気に入られたようで、残念なことに展示した翌日にはブースから姿を消してしまいました。スタッフがブースで作成した花や鳥の折り紙も大人気でした。

また、ラムサール条約のCOPでおなじみの(株)アレフによる「ふゆみずタンゴ」は今回も大好評で、曲に合わせて一緒に踊る人々でブースが賑わいました。

② UNDB-DAYでの活動(12月5日)

開催日 12月9日(月) 10:00~18:00

主催: 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)・生物多様性条約事務局

共催: 環境省・IUCN-J

タイトル: 「生物多様性の主流化: 世界のあらゆる所で変化を起こそう」



ブラウリオ・ディアス CBD 事務局長

2011年から始まった国連生物多様性の10年も半分を過ぎ、残り4年という状況の中、「生物多様性に関する人々の行動の変化」＝「生物多様性の主流化」が求められています。主流化とは簡単に言えば、生物多様性に関係する分野で生物多様性が意識されることを指し、主流化を強い力で進めていくため、1日がかりのイベントで、様々な分野の人が一同に会しました。

セッション1では生物多様性戦略2012-2020・愛知ターゲットの達成・主流化を促進するメカニズムの事例紹介として、グローバルレベルでの仕組み・国、自治体レベルの仕組みの紹介、主流化の戦略的推進のためのパネルディスカッションが行われました。

セッション2では、生物多様性戦略2012-2020・愛知ターゲットの達成に関する様々なテーマ・セクターによる優良事

例の紹介があり、その中でラムネットJは、優良事例の一つとして、「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の発表を呉地さんが行い、皆様からご提供いただいた農業の生物多様性向上に向けた活動資料を展示しました。

終了後のパーティでは、有機の米を原料に作られた日本酒（小山市・大崎市提供）と、日本茶・有明海産の海苔（コープネット事業連合提供）と、コウノトリ米（JA全農提供）を展示・提供しました。副環境大臣はじめ、各国ユースの代表など、発表者の皆様に味わっていただき、農業の生物多様性の主流化に向けた農家・自治体・流通・消費者等の活動を紹介しました。ケータリングの一メニューとしておにぎりを提供する計画の実施に努めたのですが、残念ながら実施できませんでした。日本茶は特にユースに、酒は皆さんに！人気がありました。



【おにぎり提供ができなかったことについてのお詫びと経過説明】

「メキシコ政府からの特別な許可があれば持ち込み可能」という情報を得たため、協賛企業等に働きかけ、特別栽培米のご提供をいただきました。「特別な許可を得る」ために、各方面にコンタクトを取り、「生物多様性向上をめざす農法で作られた米を味わってもらおう」というラムネットJの意向を伝

えました。各担当者の理解は得られましたが、時差等で連絡に手間取り、最終的には在メキシコ大使館の農水省担当者からメキシコ政府に働きかけてもらえるよう、農水省の担当者をお願いしました。しかし時間が足りず実現できませんでした。ご提供くださった皆様には心よりお詫び申し上げます。

③ ラムネットJ サイドイベント「農業の生物多様性の主流化に向けて」 12月9日実施

実施タイトル：「農業の生物多様性向上のために、関連する様々なセクターを行動に巻き込もう」

プログラム：（全体進行：柏木実、開会の挨拶：安藤よしの）

1. ラムネットJ 呉地正行：「田んぼ10年プロジェクトを通じた農業の生物多様性向上の主流化」
2. ウガンダ水環境省ポール・マファビー：「ウガンダでの水田決議の実践-湿地の生態系機能を活かす農業開発」
3. (株)アレフ橋部佳紀：「水田の生物多様性向上への企業セクターの貢献」
4. カマルル・ライ（ネパール）：「我々の生き残りをかけた在来種米の保全」
5. 国際連合食糧農業機関（FAO）マティアス・ノルヴァート：「水田と持続可能な農業プログラム」



最初に呉地さんが田んぼ10年プロジェクトの活動を紹介し、水田の生物多様性の向上には、まずは農家や関係者に生きもの豊かな場所としての田んぼに気がつく機会を提供することが主流化につながると発表しました。

ウガンダのマファビさんは JICA プロジェクトにもなっている2つの湿地管理プロジェクトを紹介しました。このプロジェクトで、ウガンダ国内の湿地に関する科学的情報が手に入

るようになった、湿地の管理計画が整えられたなどの成果について報告がありました。また(株)アレフの橋部さんは、生きものにやさしいお米を契約農家に作ってもらい、レストランでそのお米を提供することを目指していると報告しました。ダンス「ふゆみずタゴ」は、この日のサイドイベントでも大人気でした。FAOのMatthiasさんは、農業、特に水田における生物多様性の重要性について述べ、特に東南アジア

の国々では田んぼで捕れる魚が地域住民の蛋白源として非常に重要であると報告し、フード

セキュリティ（食糧安全保障）と環境保全は互いの働きを補い合うだけでなく、互いの働きを強めあうべきだと述べました。ネパールの Kamal さんの報告はラムネットJの柏木さんが代りに行いました。ネパールの農地の 50%は水田で、多種の稲が育っているものの、農業にまつわる精神的伝統的文化を維持するのが難しくなっていると述べました。

「田んぼ 10 年プロジェクトのような優れた取り組みが実施されてきていることは喜ばしい」との FAO マティアスさんの発表の冒頭での発言もあり、今後の田んぼ 10 年の活動のス



(株)アレフの橋部佳紀さん

ネパールのカマル・ライさん

テップアップへと弾みがついたサイドイベントでした。

神奈川県



各地の活動紹介

登録会員の活動をご紹介します。

たんぼの草取り&コナギを天ぷらにして食べちゃおう！

NPO 法人 小田原食とみどり 齋藤文子

日時：2016年8月6日（土） 9:00～12:00

場所：春みずたんぼ、曾我みのり館調理室・Aホール

スケジュール：

09:00～10:00 春みずたんぼに集合 田の草取り

10:10～10:30 たんぼ到着、草取り（コナギ）の説明
草取りおよびコナギの収穫
（そのほかの草の種類も説明）

10:50～ 曾我みのり館調理室で説明・調理・試食

【メニュー】

天ぷら：コナギ、かき揚げ
（桜えび+玉ねぎ）、ゴーヤ

【目的と経緯と結果】

■たんぼの生物多様性10年プロジェクト「にじゅうまるプロジェクト」に登録（4/8 認定）したことから、活動の見える化として実施した。日頃たんぼの学校での無農薬の米作りをする中で、雑草としては厄介者の「コナギ」を別の視点から見たらどうか、ということで先行する団体の活動を参考に、コナギを優良な食材として捉え、「コナギを天ぷらにして食べちゃおう！」を企画した。

■曾我みのり館フェスティバルにあわせて、企画した。調理室と試食会場の関係から、募集枠を10名とした。一般参加者(会員)とボランティア参加者9名の参加があり、スタッフ2名を加え11名で実施。試食のみ参加の2人を加え、参加者は13名。

■まずは、たんぼの学校豊年倶楽部のメンバー8名で春みずた



んぼの草取り、途中から合流した一般参加者に雑草やコナギの説明をした上で、コナギを採集

■調理室に移り、調理の段取りを説明後、調理に入る。(食材へのこだわり注目)

- ◆天ぷら粉：会員本多直子さん栽培オーガニック小麦粉を、炭酸水でとく。
- ◆塩（梅酢から作った塩）・油：(平田産業)・玉ねぎ：NPO 無農薬
- ◆ゴーヤ：村越さんの差し入れ

普段調理はあまりしないという人も積極的に手を出し、料理教室のような楽しい雰囲気ですすめられた。村越さんから朝取りしたゴーヤの差し入れがあり、天ぷらの具材に加えた。

■試食は、思った以上の量となり、満腹感あり。コナギはクセがなく美味しいと、参加者一同感動の声が上がった。興味深い企画だと参加者には好評。試食しながら、自己紹介に始まり会話が弾み、楽しいひと時となった。この活動の報告の場作りと今後の活動にどうつなげていくかは今後の課題である。



田んぼに生えるコナギ



天ぷらを揚げる



初めてのコナギを試食



宮城・伊豆沼のハスを化粧品に

宮城県と伊豆沼農産（宮城県登米市）、日用品メーカーの日本ゼットク（東京・新宿）が連携し、県内の伊豆沼で採れたハスを原料とする基礎化粧品を開発した。ハスは増えすぎると沼の水質を悪化させる。化粧品に使うことで、県産資源の有効利用と環境保護を両立する。

「はす肌化粧水」（150 ミリリットル）と「はす肌クリーム」（100 グラム）を 11 日に発売した。化粧水の価格（税別）は 1800 円で、クリームが 2200 円。9 月末までは記念価格としてそれぞれ 1500 円、2000 円とする。県内のウジェスパー各店舗や伊豆沼農産の直売所のほか、インターネットでも販売する。

売上高の 3 % は伊豆沼の環境保全に役立てる。伊豆沼はハスの花が満開になる 8 月だけで 2 万人の観光客が訪れる県内有数の景勝地だ。ハスが増えすぎないように宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団が毎年刈り取っているが、人手と費用が足りず難航し

（出典：秋田魁新報 2016.08.01 ほか）

ている。化粧水とクリームの収益を、刈り取りなどの費用に充てる予定。

伊豆沼で採れたハスの花のエキスト、伊豆沼農産が手掛ける乳酸菌を配合した甘酒を原料に使った。日本ゼットクなどは「ハス花エキスは肌の老化を防ぐ抗酸化作用が期待できる」と説明している。甘酒はビタミン B 群やコウジ酸などの成分を含んでいるという。

宮城県によると、日本ゼットクから復興プロジェクトへの協力提案があり、ハスの花の活用を県が依頼したという。村井嘉浩知事は「ハスの花は肌に良い成分を多く含んでいるようだ。売り上げの一部は伊豆沼の環境保全になる。ぜひ使ってほしい」と呼びかけた。

ハスは夏場に多くの観光客を呼び込む一方で、冬に枯れた残骸は沼に蓄積して水質を悪化させる。水質が全国でワースト上位に位置付けられるとの調査もあり、定期的に刈り取って利用することが課題になっていた。

水田部会からのお知らせ

◆ 2 月に開催予定の田んぼ 10 年の集會

1. 田んぼ 10 年全国集會 in 川越 2017 年 2 月 18 日（土）13:00~17:00
於：ウスタ川越 活動室 1-2（川越駅より徒歩 5 分）
同時開催：・エクスカーション（9:15~12:30）
・ポスターセッション（17:00~18:00）集會終了後
2. 田んぼ 10 年地域集會 in いすみ 2017 年 2 月 25・26 日（土・日）
於：いすみ市大原文化センター 1F 大会議室
・エクスカーション 2 月 25 日（土）13:30~17:00 懇親会 18:00~20:00
・地域交流会（公開セッション）2 月 26 日（日）9:00~15:45
* 詳しくは同封のチラシをご覧ください。2 件の取り組みがあります、お申し込みの際にはお間違えの無いようご注意ください。

◆ 2017 年度の主な取り組み予定（全部予定）

1. 6 月 地域交流会 in 小田原
2. 8 月 全国集會 in 東京
3. 11 月 地域交流会
4. 2018 年 2 月 にじゅうまる COP3 in 東京

シールが出来ました！

田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクトの啓発シールが出来ました！プロジェクト参加者のみなさまに 1 枚ずつお送りします。イベント等で利用されたい方は、ご相談ください。



■ 田んぼ 10 年プロジェクト 新規参加者のご紹介（2016 年 11 月～2017 年 1 月）

169	北海道	団	田んぼの生きもの研究室
170	千葉県	団	いすみ市

★現在準備中の HP では参加されている皆様の活動の内容も含めて掲載いたします。少々お待ちください。

CBD/COP13 のための特別協賛金にご協力下さった皆様へ心より御礼申し上げます。

JA 全農・コープネット事業連合・大崎市・小山市・田んぼ 10 年に参加する個人の方々ラムネット J の活動は皆様の協力と協働で成り立っています。引き続きましてどうぞよろしくお願い致します。



田んぼ 10 年プロジェクトは、企業からの支援をいただいています。

連絡先/事務局

ラムサール・ネットワーク日本
info@ramnet-j.org
FAX:03-3834-6566



田んぼ 10 年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の 10 年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースレターは、平成 28 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。

